古代能登の挽物について

久田正弘

１．はじめに

石川県内では、古代～中世の木製食器については先行研究により体系（川畑1994・1996、四柳1991など）づけられた。近年、能登地方の木製品の資料が増加しつつある中で、四柳ミッコ遺跡などからスギの盤が多く出土したので、樹種から古代能登の挽物についてまとめてみたい。なお、実測図は木取りの間違い（久田2017）などを含めて、訂正したものがあることを断っておく。

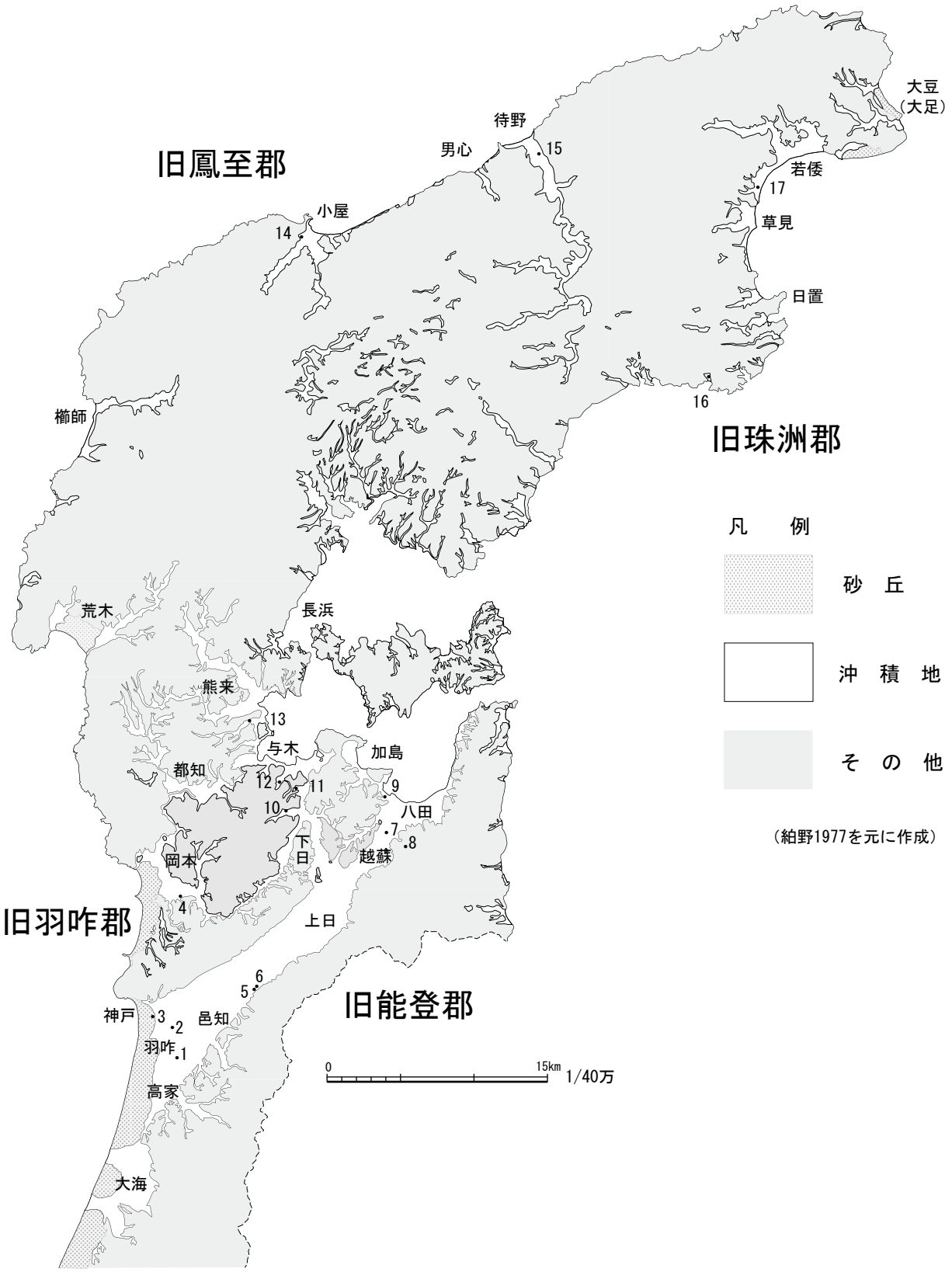
２．挽物の事例

能登国は、718年（養老２年）に越前国から羽咋（はくい）・能登（のと）・鳳至（ふげし）・珠洲（すず）郡を割いて成立したが、741年（天平13年）に越中国に併合され、757年（天平宝字元年）に再び分国した。羽咋郡は大海（おおみ）・荒木（あらき）・高家（たかや）・羽咋（はくい）・岡本・邑知（おうち）・都知（つち）・神戸（かんべ）、能登郡は上日（あさひ）・下日・越蘇（えそ）・八田（やた）・加島（かしま）・与木（よき）・熊来（くまき）・長浜（ながはま）、鳳至郡は櫛師（くしし）・小屋・男心（なじみ）・待野（まちの）・余戸（あまるべ）、珠洲郡は日置（ひき）・草見・若倭・大豆（大足）・余戸（あまるべ）である（第１図）。郷の比定については平凡社1991『石川県の地名』と当センター職員等の意見を参考に作図した。郷の比定については、中世～現代の地名や文献などから様々な意見があるようだが、水田利用可能地（沖積地）を念頭に置いて配置を試みた。

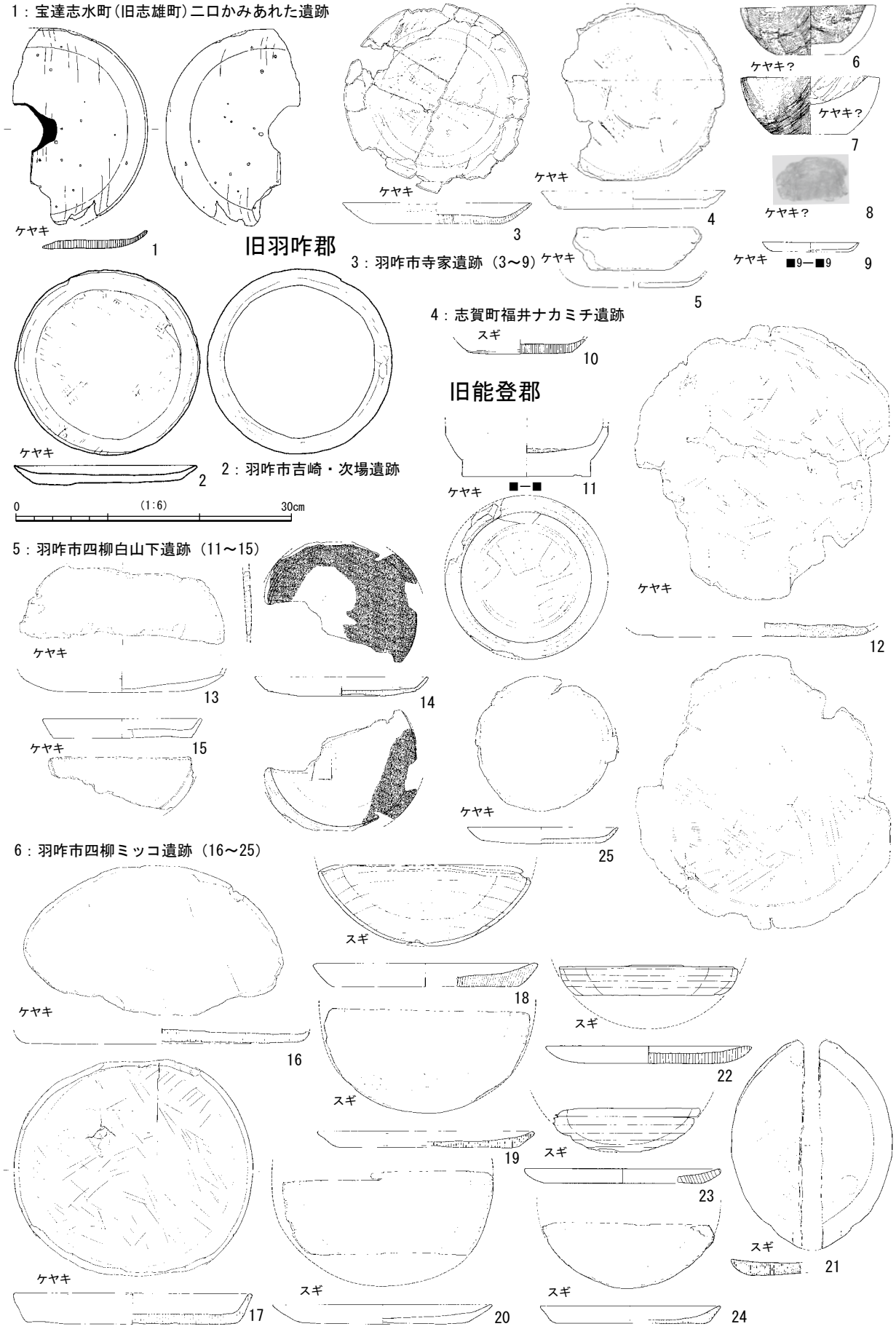
旧羽咋郡内からは第２図１～25が出土した。第１図１宝達志水町（旧志雄町）二口かみあれた遺跡から第２図１が出土（上野ほか1995）した。１は22㎝程度の盤（ケヤキ）であり、口縁部の立ち上がりが浅い。中央に丸い孔があるので甑の簀子などに転用されたようだ。第１図２羽咋市吉崎・次場遺跡から第２図２が出土（福島ほか1988）し、ケヤキで直径20.2㎝である。第１図３羽咋市寺家遺跡から第２図３～９が出土した。第11次調査（土屋ほか1997）では３～５が出土し、ケヤキで３・４は直径21～20㎝程度、５はそれ以下と思われる。10世紀後半～11世紀前半とされるが、須恵器から古い時期は８世紀後半からと幅を持たせたい。第４次調査（谷内1982）では６～９が９世紀前半の土坑から出土した。６～８は荒型であり、工具でカットした面（第６図７、四柳ほか2011）があり、肉眼観察では３点ともケヤキと判断した。９は内外黒漆の多層塗であり、ケヤキである（四柳1991・1997）。第１図４羽咋郡志賀町福井ナカミチ遺跡から第２図10が出土（川畑ほか2017）した。直径16㎝程度と思われ、肉眼観察でスギと判断した。

旧能登郡からは第２図11～第４図57が出土した。第１図５羽咋市四柳白山下遺跡から第２図11～15が出土した。11はケヤキの漆器椀（川畑ほか2005）であり、内外面は黒漆で底部は厚く、４つのロクロ爪痕があるようだ。12～15はＥ地区出土（川畑ほか2017）であり、14以外はケヤキである。12は直径30㎝程度の大型品であり、13は直径22㎝以上、14は直径19㎝、15は18㎝前後である。12・14・15は内面の底面は水平に近いが、13は中央が窪むようだ。第１図６羽咋市四柳ミッコ遺跡から第２図16～25が出土（林ほか2015）した。16・17・25はケヤキ、18～24はスギである。ケヤキの16は直径30㎝以上の大型であり、17は直径26㎝で口縁部は深い。スギの18～22は直径24～25㎝前後、22・23は直径22～23㎝前後、24は直径20㎝前後で、25は直径17㎝弱と推定され、直径では数グループが確認される。

第１図７七尾市能登国分寺跡から第３図26・27が出土（土肥ほか1989）した。26は総黒色の漆器であり、直径は22㎝程度で厚さ１㎜程度の黒漆が塗られた優品であるという。９世紀前半の墨書土



第１図　古代の挽物出土遺跡の位置



第2図　古代能登の挽物1

器と共伴し、大興寺の時期と思われる。27は北側区画溝からの出土（土肥ほか1986）なので能登国分寺の時期と思われる。第１図８小池川原地区遺跡から第３図28・29が出土（岡田ほか1990）出土し、総黒色の漆器椀だが排水溝からの出土なので詳細は不明である。古代ならばケヤキと思われる。第１図９七尾市小島西遺跡から第３図30 ～ 34が出土(大西ほか2008)した。30 ～ 33はケヤキであり、34はスギである。30は直径30cm以上の大型、34は26cm前後、31・32は21cm程度、33は16cm程度と思われる。

第１図10七尾市（旧田鶴浜町）吉田Ｃ遺跡から第３図35が出土（岩瀬2004）した。肉眼観察ではスギであり、直径は20cm弱で中央に円形の孔を持つので甑の簀子に転用されたと思われる。第１図11七尾市（旧田鶴浜町）杉森テラアト遺跡から第３図36が出土（三浦1991）し、写真からスギと判断した。第１図12七尾市（旧田鶴浜町）三引遺跡から第３図37 ～ 46が出土（滝川ほか2001・小島ほか2003）した。古代から中世にかけての木製品が河道などから多数出土し、スギは37 ～ 43、ケヤキは44 ～ 46が報告された。37は直径30cm弱、38は28cm程度、39・40は25cm程度、45は20cm程度、44は18cm前後と思われる。38は口縁部の立ち上がりは高く、41も高い可能性があるが、他は口縁部の立ち上がりは低い。

第１図13七尾市（旧中島町）下笠師Ｅ遺跡から第４図47 ～ 57が出土（中島1997）した。47 ～ 56の荒型が１号土坑（深さ140cm）から出土し、盤は大（46、26cm程度）中（48 ～ 51、21cm程度）小（52 ～ 55、17cm程度）があり、56は椀（14cm）であろう。肉眼鑑定ではケヤキと判断した。57は古代～中世の鞍部からの出土であり、第１図11の類例から古代の可能性があろう。実測図では外面にカット面が残っているようなので、外面は製作途中なのかもしれない。

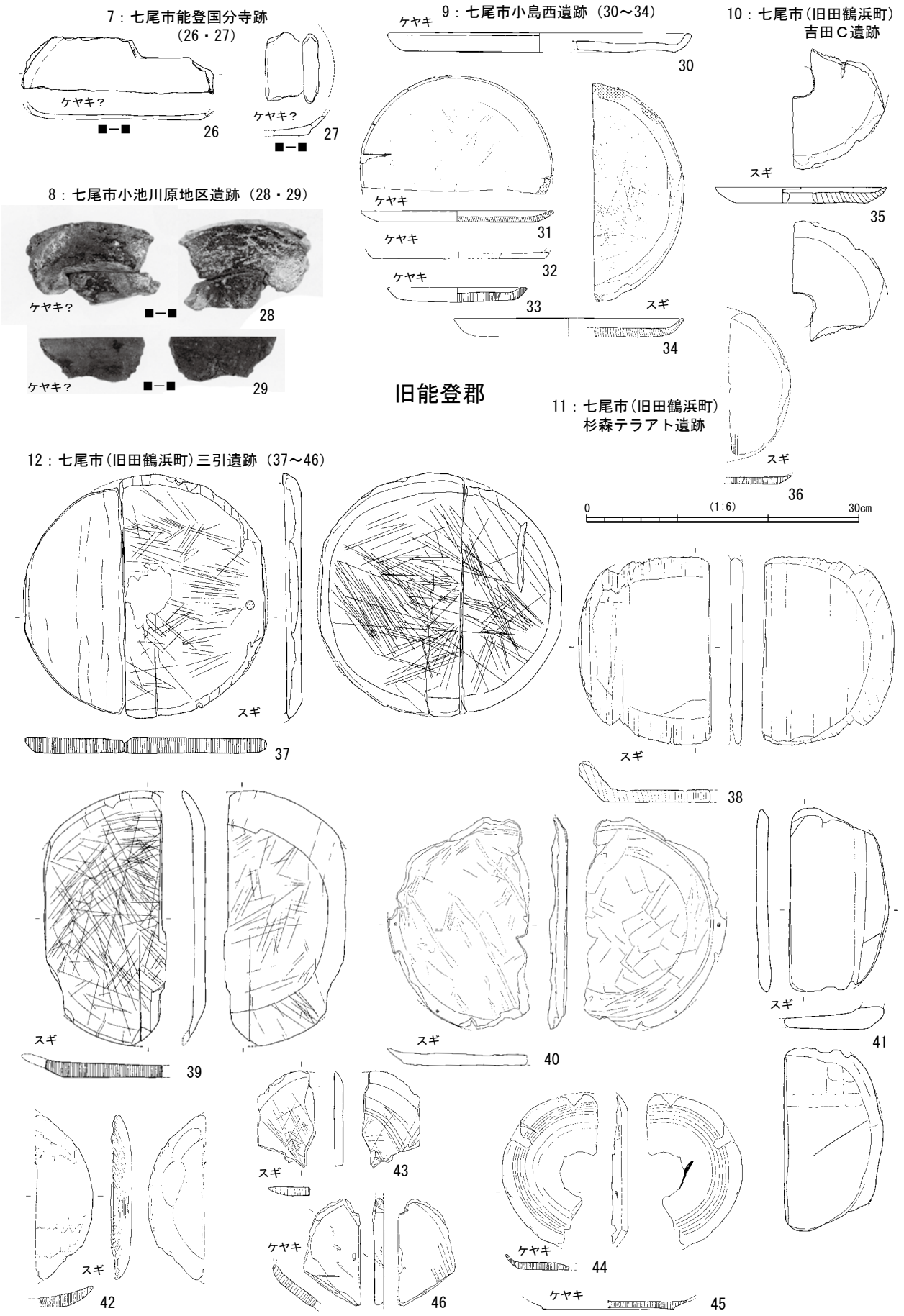
旧鳳至郡では、第５図58 ～ 60が出土している。第１図14輪島市釜屋谷Ｂ遺跡から58が出土（砂上・四柳1997）した。直径42cmの大型の盤であり、中央部は浅い。外面は黒色漆が２層、内面には１層が残っているが内面も２層塗と思われる。第１図15輪島市町野町時国古屋敷遺跡から59・60が出土（安ほか2000）した。共にケヤキの漆器盤であり、横組み井戸（59）と区画溝（60）から出土した。しかし、60は薄造りなので、２点はロクロ挽き・塗・使用に至るまで格差が大きい（安ほか2000）という。

旧珠洲郡では、第５図61 ～ 67が出土した。第1図16能登町（旧能都町）真脇遺跡から61 ～ 66が出土（高田ほか1986）し、盤（61 ～ 64）と荒型２点（65・66）がある。65は５個のロクロ爪痕が残っている。61・62は直径25 ～ 26cm程度、63は直径22cm程度、64は直径18cm程度である。写真から樹種を判断したが確証はない。第1図17珠洲市南方遺跡から67が出土（宮川2005）し、直径14cmの小型である。

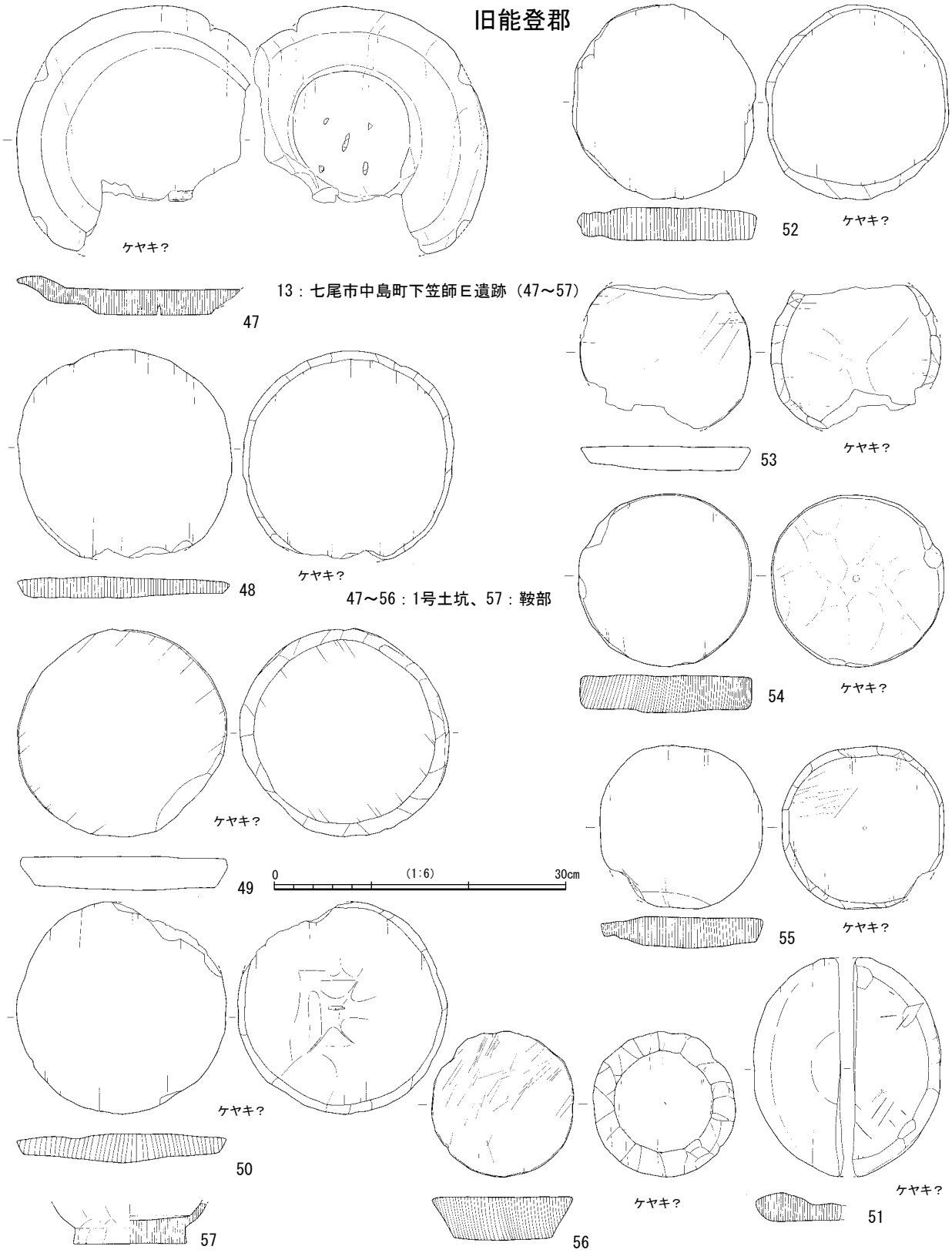
３．遺跡の性格

羽咋郡の状況をみてみたい。二口かみあれた遺跡は邑知潟の湖南ブロックに属する集落であり、湖南ブロックは墨書土器から郷の領域の可能性が示唆（三浦2017）されている。寺家遺跡第４次（第２図５～８）は気多大社に付属する工房（四柳1991）であり、寺家遺跡全体は古代気多神社と関連施設群（牧山ほか2010）である。福井ナカミチ遺跡は福野潟湖畔に立地し、製塩の管理施設で一時的に宗教施設が存在（川畑ほか2017）したようである。

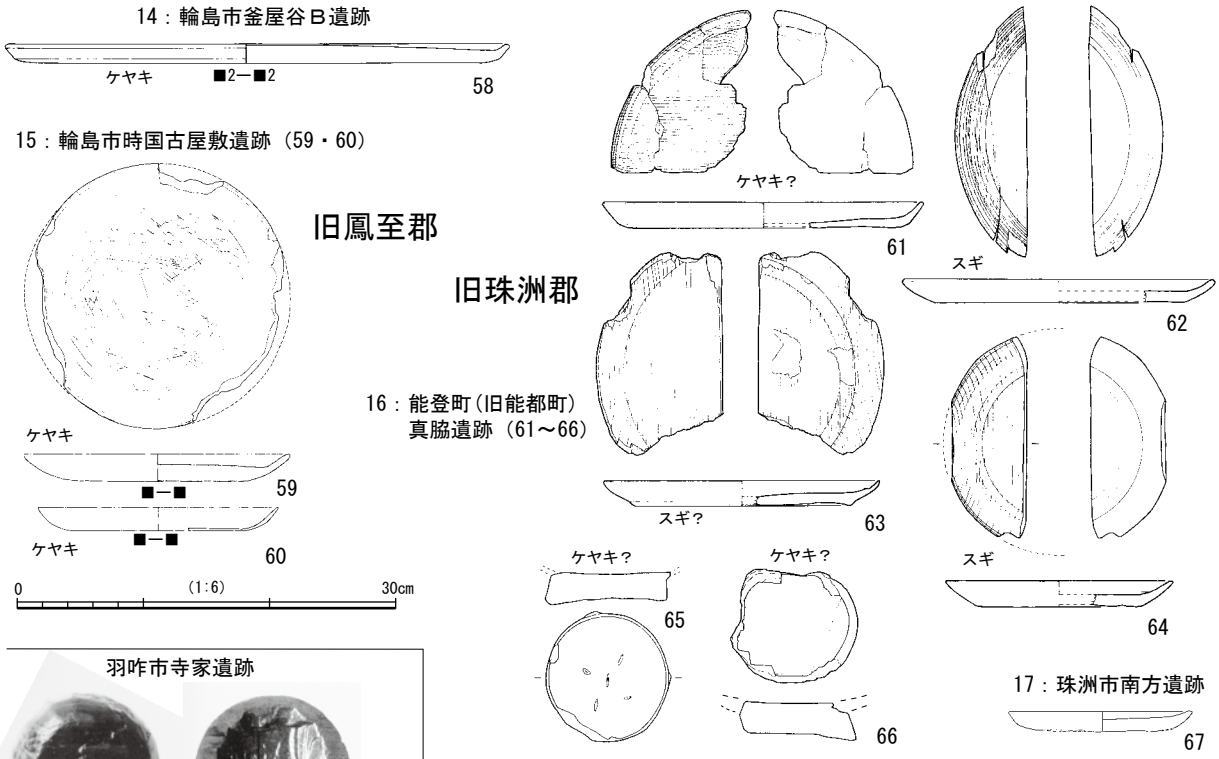
能登郡の状況をみてみたい。四柳白山下遺跡は下日郷末端官衙（川畑ほか2019）、その北東に隣接する四柳ミッコ遺跡も与木郷関連施設（林ほか2015）とされた。長年比定が困難だった与木郷は、「『和名類聚抄』では「能登郡　上日　下日　越蘇　八田　与木　熊木　長浜　神戸」、『能登国四郡公田田数目録案』では「鹿島郡　上日庄　越曽　八田郷　与木院　熊来院」と記載され（中略）南から北に記載されていることが確認」されたので、与木郷は七尾市（旧田鶴浜町）大津周辺に比定（三浦



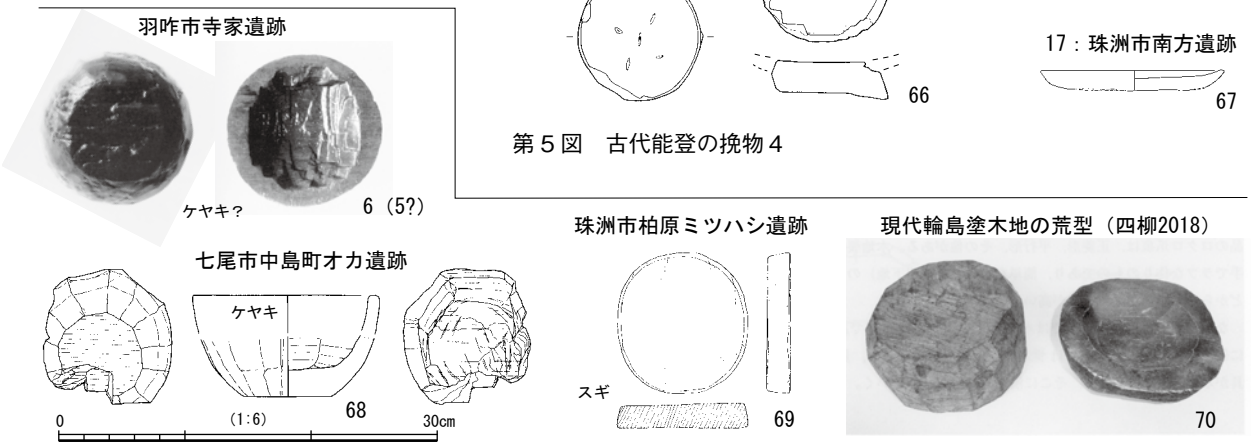
第３図　古代能登の挽物２



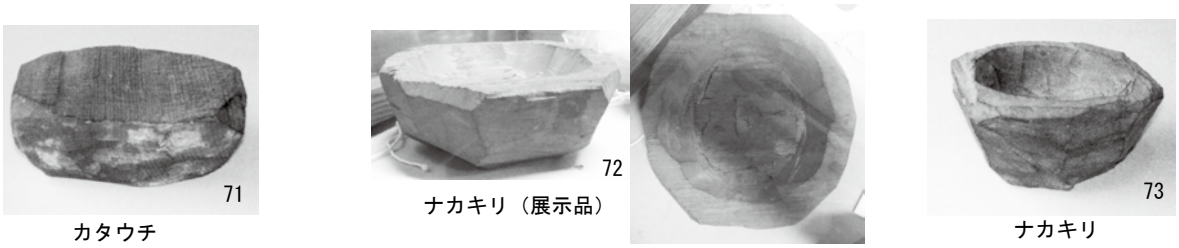
第４図　古代能登の挽物３



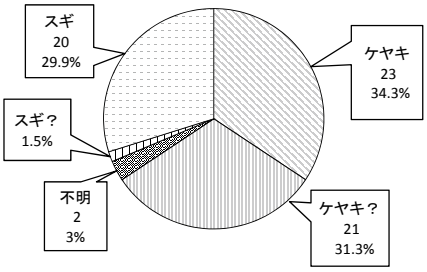
第５図　古代能登の挽物４



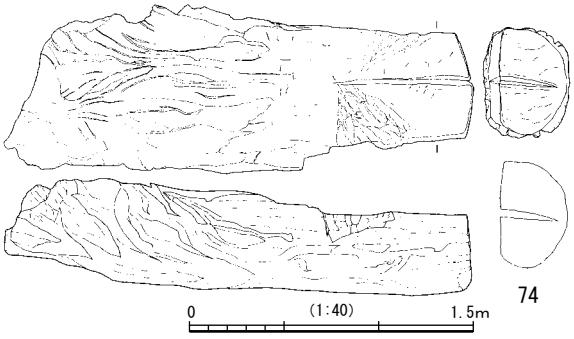
第６図　古代～現代までの能登の挽物粗型



第７図　糸魚川大所地区木地屋民俗資料館の荒型（図録・展示品）



第８図　古代能登の挽物の樹種



第９図　杉野屋遺跡のケヤキ材

遺跡	番号	旧郡名	現在市町名	旧市町村名	遺跡名	報告番号	器種	樹種	口径	底径	器高	漆など	時期	備考
1	1		宝達志水町	志雄町	二口かみあれた	W13	盤	ケヤキ	226		22		8後～9前	
2	2		羽咋市	羽咋市	吉崎次場	130図13	盤	ケヤキ	202	160	21		平安	
3	3	旧羽咋郡	羽咋市	羽咋市	寺家	23図72	盤	ケヤキ	206	140	23		8後～11前	
	4		羽咋市	羽咋市	寺家	18図19	盤	ケヤキ	200	160	20		8後～11前	
	5		羽咋市	羽咋市	寺家	18図18	盤	ケヤキ					8後～11前	
	6		羽咋市	羽咋市	寺家	17	椀	ケヤキ？	150	80	60	荒型	9前	
	7		羽咋市	羽咋市	寺家	16	椀	ケヤキ？	150	80	60	荒型	9前	
	8		羽咋市	羽咋市	寺家		椀	ケヤキ？	147	78	50	荒型	9前	
	9		羽咋市	羽咋市	寺家	18	盤	ケヤキ？	95	75	12	総黒漆	9前	多層塗
4	10		志賀町	志賀町	福井ナカミチ	45図325	盤	スギ		112			8前～9後	
5	11	旧能登郡	羽咋市	羽咋市	四柳白山下	45図136	椀	ケヤキ		140		総黒漆	8後～9前	爪痕4？、Ⅰ
	12		羽咋市	羽咋市	四柳白山下	47図123	盤	ケヤキ					8前～9後	Ⅲ
	13		羽咋市	羽咋市	四柳白山下	70図174	盤	ケヤキ		172	19		7後～8後	Ⅲ
	14		羽咋市	羽咋市	四柳白山下	40図60	盤	不明	188	160	21		8前～9後	Ⅲ
	15		羽咋市	羽咋市	四柳白山下	64図157	盤	ケヤキ			21		8前～9前	Ⅲ
6	16		羽咋市	羽咋市	四柳ミッコ	105図502	盤	ケヤキ	320	297	16		7後～8後	B区
	17		羽咋市	羽咋市	四柳ミッコ	105図501	盤	ケヤキ	260	220	34		7後～8後	B区
	18		羽咋市	羽咋市	四柳ミッコ	105図503	盤	スギ	238		25		7後～8後	B区
	19		羽咋市	羽咋市	四柳ミッコ	104図497	盤	スギ	224		18		7後～8後	B区
	20		羽咋市	羽咋市	四柳ミッコ	104図496	盤	スギ	227		21		7後～8後	B区
	21		羽咋市	羽咋市	四柳ミッコ	104図498	盤	スギ	226		16		7後～8後	B区
	22		羽咋市	羽咋市	四柳ミッコ	104図500	盤	スギ	210		16		7後～8後	B区
	23		羽咋市	羽咋市	四柳ミッコ	104図99	盤	スギ	212		13		7後～8後	B区
	24		羽咋市	羽咋市	四柳ミッコ	167図59	盤	スギ	186		19		古代	E区
	25		羽咋市	羽咋市	四柳ミッコ	104図495	盤	ケヤキ	154	148	7		7後～8後	B区
7	26		七尾市	七尾市	能登国分寺跡	77図208	盤	ケヤキ？				総黒漆	9前	4次
	27		七尾市	七尾市	能登国分寺跡	11図1	盤	ケヤキ？				総黒漆	9後～10中	7次
8	28		七尾市	七尾市	小池川原地区	図版20	椀	ケヤキ？		168		総黒漆	8中～末	
	29		七尾市	七尾市	小池川原地区	図版20	椀	ケヤキ？				総黒漆	8中～末	
9	30		七尾市	七尾市	小島西	2257	盤	ケヤキ	330	174	21		古代	
	31		七尾市	七尾市	小島西	2255	盤	ケヤキ	212	174	13		古代	
	32		七尾市	七尾市	小島西	2258	盤	ケヤキ					古代	
	33		七尾市	七尾市	小島西	2259	盤	ケヤキ			17		古代	
	34		七尾市	七尾市	小島西	2256	盤	スギ	249	201	21		古代	
10	35		七尾市	田鶴浜町	吉田C	14図66	盤	スギ	180	144	17		8中～9後	
11	36		七尾市	田鶴浜町	杉本テラアト	8図23	盤	スギ					奈良	
12	37		七尾市	田鶴浜町	三引	64図382	盤	スギ	266		20		古代	東
	38		七尾市	田鶴浜町	三引	75図14	盤	スギ	202		42		古代	10区
	39		七尾市	田鶴浜町	三引	64図383	盤	スギ	279		16		古代	東
	40		七尾市	田鶴浜町	三引	35図3	盤	スギ					古代	5区
	41		七尾市	田鶴浜町	三引	64図384	盤	スギ	201		24		古代	東
	42		七尾市	田鶴浜町	三引	86図28	盤	スギ					古代	11区
	43		七尾市	田鶴浜町	三引	76図16	盤	スギ					古代	10区
	44		七尾市	田鶴浜町	三引	35図2	盤	ケヤキ	166	75	18		古代	5区
	45		七尾市	田鶴浜町	三引	114図56	盤	ケヤキ		140			古代	13区
	46		七尾市	田鶴浜町	三引	70図293	盤	ケヤキ					古代	7区
13	47		七尾市	中島町	下笠師E	13図1	盤	ケヤキ？				荒型	8後	
	48		七尾市	中島町	下笠師E	14図3	盤	ケヤキ？	219		22	荒型	8後	
	49		七尾市	中島町	下笠師E	13図2	盤	ケヤキ？	218		34	荒型	8後	
	50		七尾市	中島町	下笠師E	14図4	盤	ケヤキ？	218		30	荒型	8後	
	51		七尾市	中島町	下笠師E	14図5	盤	ケヤキ？	225		24	荒型	8後	
	52		七尾市	中島町	下笠師E	15図6	盤	ケヤキ？	199		34	荒型	8後	
	53		七尾市	中島町	下笠師E	16図9	盤	ケヤキ？	175		22	荒型	8後	
	54		七尾市	中島町	下笠師E	15図7	盤	ケヤキ？	177		37	荒型	8後	
	55		七尾市	中島町	下笠師E	15図8	盤	ケヤキ？	168		32	荒型	8後	
	56		七尾市	中島町	下笠師E	16図10	盤	ケヤキ？	15	100	4.5	荒型	8後	
	57		七尾市	中島町	下笠師E	12図24	椀	ケヤキ？		116			8後～中世	
14	58	旧鳳至郡	輪島市	輪島市	釜屋谷B	図1-1	盤	ケヤキ	420	396	15	総黒漆	9後～10前	漆2層塗
15	59		輪島市	輪島市	時国古屋敷	28図1	盤	ケヤキ	213	143	13	総黒漆	9後～10前	
	60		輪島市	輪島市	時国古屋敷	28図3	盤	ケヤキ	191	137	19	総黒漆	9後～10前	
16	61	旧珠洲郡	能登町	能都町	真脇 X区	図5-10	盤	ケヤキ？	256		22		8後～9後	P450
	62		能登町	能都町	真脇 X区	図5-8	盤	スギ	250				8後～9後	P450
	63		能登町	能都町	真脇 X区	図5-9	盤	スギ？	244				8後～9後	P450
	64		能登町	能都町	真脇 X区	図5-7	盤	スギ	180				8後～9後	P450
	65		能登町	能都町	真脇 X区	図5-14	盤	ケヤキ？	100		25	爪痕5	8後～9後	P450
	66		能登町	能都町	真脇 X区	図5-13	盤	ケヤキ？	96		18		8後～9後	P450
17	67		珠洲市	珠洲市	南方	6図24	盤	不明	140		16		8後～10前	
	68		七尾市	中島町	オカ	図2-1	椀	ケヤキ				荒型	12前～13前	
	69		珠洲市	珠洲市	柏原ミツハシ	115	皿	スギ	112	104	20	荒型	12後	
	70		宝達志水町	志雄町	杉野屋	30図294	材	ケヤキ	251	幅88	高55		古代	3段階の加工

2017）された。その論理に従えば、能登郡最初は上日郷、次が下日郷であろう。下日郷は中世には上日庄に含まれ、その後上日庄の中心地になり、上日（あさひ）の地名が現代に継承されたのではなかろうか。能登国分寺跡は定額寺の大興寺が国分寺に転用した遺跡である。小池川原地区遺跡は、官人の居宅跡か官衙関連施設とされたが、鞴の羽口や舞羽・綛かけ（第37図21・22）から官衙関連工房と管理施設と思われる。小島西遺跡は能登国府ないし香島津に付属した祭祀場（大西2008）なので、加島郷に属すると想定したい。吉田C遺跡は調査区幅が狭いこと、杉本テラアト遺跡と三引遺跡は河道・鞍部出土からの出土なので遺跡の性格は不明であるが、スギがやや多い。下笠師E遺跡は、能登国衙

ないし能登郡衙に付属した工房（四柳1991）とされたが、調査区幅が狭いために詳細は不明である。

鳳至郡の状況をみてみたい。釜屋谷Ｂ遺跡は鳳至郡小屋郷の中心部なので、鳳至郡の官衙関連遺跡（四柳1997）とされ、時国古屋敷遺跡は、待野駅が廃止された後の待野郷の官衙関連施設（安ほか2000）とされている。珠洲郡の状況をみてみたい。真脇遺跡は当時珠洲郡日置郷に属したようで、荒型や漆付着須恵器無台坏があるので郷に付属した工房が存在した可能性があろう。南方遺跡は調査範囲が狭いために詳細は不明である。

古代の盤などが官衙関連施設から出土するのは、多くの報告書や論文（川畑1996など）で指摘され、神社（寺家遺跡）や国衙・郡衙（下笠師Ｅ遺跡）や郷（真脇遺跡）で工房が付属した可能性があろう。寺家遺跡と下笠師Ｅ遺跡の樹種は全てケヤキであり、他の遺跡ではケヤキもあるがスギが多く存在する。旧能登国出土の67点中ケヤキ23点：ケヤキ？ 21点：不明２点：スギ？ １点：スギ20点であり、ケヤキ系65.7％：スギ系34.3％（第７図）である。ケヤキが主体なのは河北郡津幡町加茂遺跡でも確認（ケヤキ９点69.2％：スギ２点15.3％：トチノキ２点15.3％）される（浜崎ほか2009・和田ほか2018）。能登国の挽物は、上位の遺跡ではケヤキが主体、下位の遺跡ではケヤキもあるがスギも多いことが確認された。

荒型から製品にする作業は、昭和の糸魚川市大所地区（重要有形文化財）での工程段階はカタウチ（側面をカット、70）、ナカキリ（内側を抉る、71・72）、アラビキ、ナカビキ、シアゲ（小椋ほか2006）である。遺物では、48～50・52～57がカタウチ、６～８・68がナカキリ、７・65・66はナカビキかシアゲが壊れたものと判断した。ナカキリは外面の上下を３段程度に分けて多面体でカットし、内面をチョウナで抉っるが、６（古代）、68（中世）、71・72（昭和）、73（現代）であるが、刃幅以外はあまり差がないと思われる。

珠洲市柏原ミツハシ遺跡では、12世紀後半の井戸から漆器椀２点（ケヤキとトネリコ属）と69（スギ）が出土し、69は漆器荒型としたいがスギから曲物底板とされた（岩瀬ほか2004）。しかし、70は形状からみてカタウチの可能性が高く、スギを利用した挽物は古代からの伝統で能登では中世初頭まで存在した可能性が想定されよう。第8図70は宝達志水町（旧志雄町）杉野屋遺跡から出土したケヤキ材（澤辺ほか2011）である。長さ251㎝幅88㎝厚さ55㎝で根を含む材であり、川跡から出土した。廃棄後に貴重なケヤキ材を再利用するために図右側の切断を試みたが、堅くて途中で放棄したのであろう。

挽物盤は儀器的使用（川畑1994）と数法量により共用的性格を持つ（川畑1996）という。古代の木盤・漆盤のサイズは『延喜式』『観心寺勘録縁起資財帳』から、小盤（５寸148㎜～６寸177.6㎜未満）、中盤（６寸以上～１尺2960㎜未満）、大盤（１尺以上１尺７寸503.2㎜程度）があるという（四柳1997）。大盤は11・15・57があり、すべてケヤキである。小盤は８・14・24・32・43がケヤキであり、63・69はスギの可能性もあり、直径10・14・16㎝のサイズが確認される。中盤は20～22㎝程度（７～7.5寸）、24～25㎝程度（８～8.5寸）、28～29㎝（9.5寸）程度に分かれるようであり、スギも一定量ある。

４．まとめにかえて

古代～中世の木製食器については川畑氏、漆器に関しては四柳氏の多くの論考があり、本稿よりも先行研究を参照されたい。筆者は、現在までの集成を行い、樹種については写真などで比定を試みた。その結果、スギは大盤が無いことや公的に下位の遺跡に多い傾向が伺えた。古代の挽物は、但馬ではヒノキ、丹波ではケヤキ、摂津・山城ではヒノキ、近江ではスギが多く利用され、国毎に樹種と形態も異なる（藤田・阿刀2012）。奈良では、白木はヒノキ、漆器はケヤキが主体（木沢2012）である。北陸地方はスギ文化圏（鈴木・能代1990）であり、石川県の古代では刳物・挽物全体ではケ

ヤキ74％スギ8％トチノキ5％（久田2012）であり、今回古代能登の挽物はケヤキ系65.6％・スギ系31.4％という結果が得られた。

本稿をまとめるにあたり、多くの方々から協力を得たが全てを生かしてはいないのは筆者に責任がある。敬称省略。伊藤伸一、小椋裕樹、川畑　誠、木島　勉、清水　香、高田秀樹、高橋　敦、中野知幸、中山由美、牧山直樹、三浦純夫、安中哲徳、山内花緒、山川史子、四柳嘉章、和田龍介、渡邉朋和。

参考文献

岩瀬由美　2004 『吉田Ｃ遺跡』石川県教育委員会・（財）石川県埋蔵文化財センター

大西　顕ほか　2008 『小島西遺跡』石川県教育委員会・（財）石川県埋蔵文化財センター

岡田雅人ほか　1990 『小池川原地区遺跡』七尾市教育委員会

小椋　繁夫ほか　2006 『重要有形文化財　糸魚川木地屋の民具－木地製作用具と製品コレクション』木地屋会

上野　敬ほか　1995 『二口かみあれた遺跡』志雄町教育委員会

紬野義夫　1977 『石川県の自然環境』石川県

川畑　誠　1994 「石川県内出土の木製食器・容器に関する覚書」『北陸古代土器研究第4号』北陸古代土器「研究会

川畑　誠　1996 「北陸地方の木製食器の概要」『古代の木製食器』埋蔵文化財研究会

川畑　誠ほか　2005 『四柳白山下遺跡Ⅰ』石川県教育委員会・（財）石川県埋蔵文化財センター

川畑　誠ほか　2017 『福井ナカミチ遺跡』石川県教育委員会・（公財）石川県埋蔵文化財センター

川畑　誠ほか　2019 『四柳白山下遺跡Ⅵ』石川県教育委員会・（公財）石川県埋蔵文化財センター

木沢直子、藤田淳・阿刀弘史、久田正弘　2012 『木の考古学』海青社

小島芳孝ほか　2003 『三引遺跡Ⅱ（上層編2)』石川県教育委員会・（財）石川県埋蔵文化財センター

澤辺利明ほか　2011 『杉野屋遺跡』石川県教育委員会・（財）石川県埋蔵文化財センター

鈴木光男・能代修一　1990 「江跨遺跡出土木製品の樹種について『江跨遺跡』三方町教育委員会

砂上正夫・四柳嘉章　1997 『釜屋谷Ｂ遺跡』輪島市教育委員会

高田秀樹ほか　1986 『真脇遺跡』能都町教育委員会・真脇遺跡発掘調査団

滝川重徳ほか　2001 『三引遺跡Ⅰ（上層編1)』（財）石川県埋蔵文化財センター

土屋宣雄ほか　1997 『寺家遺跡』石川県立埋蔵文化財センター

土肥富士夫ほか　1986 『能登国分寺跡―第四次』七尾市教育委員会

土肥富士夫ほか　1989 『能登国分寺跡―第五・六・七次』七尾市教育委員会

中島俊一　1997 『下笠師遺跡群』石川県立埋蔵文化財センター

林　大智ほか　2015 『四柳ミッコ遺跡』石川県教育委員会・（財）石川県埋蔵文化財センター

久田正弘　2017 「漆器の年輪について」『石川県埋蔵文化財情報第37号』（公財）石川県埋蔵文化財センター

牧山直樹ほか　2010 『寺家遺跡　総括編』 羽咋市教育委員会

三浦純夫　1991 『杉森テラアト遺跡』石川県立埋蔵文化財センター

三浦純夫　2017 「能登邑知潟周辺の古代交通路」『地域社会の文化と史料』同成社

宮川勝次　2005 『南方遺跡』石川県教育委員会・（財）石川県埋蔵文化財センター

谷内碩央　1982 『釜屋・新保・猫ノ目遺跡』羽咋市教育委員会

四柳嘉章　1991　「古代～近世漆器の変遷と塗装技術」『石川考古学研究会々誌第34号』石川考古学研究会

四柳嘉章ほか　2011 『漆・悠久の系譜』輪島漆芸美術館

四柳嘉章　2018 「中世漆器の技術転換と社会の動向」『中世の技術と職人に関する総合的研究』国立歴史民俗博物館

和田龍介ほか　2018 『加茂遺跡・加茂窯跡群』石川県教育委員会・（公財）石川県埋蔵文化財センター